

ハヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男
Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。本年1/1発生「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁〜35頁を参照下さい。

※8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線線形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778 続報 直前変動等が観測され 11/1±2 地震発生の可能性考えやすい 10/9.5 火山性直前変動認識変動は極大の可能性⇒ 10/27迄変動継続の可能性

No1778長期継続前兆変動は図1のとおりの変化を示しています。

日々配信公開している観測情報では、詳しく報告しておりますが、HPでは簡単にまとめて報告させていただきます。

9/18以降は火山性変動は全く観測されなくなりましたが、10/3.4にCH26火山性変動とCH20特異が観測されました。5/10.5極大はCH26火山性前兆変動とCH20特異でしたので、5/10.5極大に対する直前変動の可能性と認識しました。この関係からは 11/1±1 発生の可能性が示唆されます。

続いて10/9に一日だけ図2の様な火山噴火型変動が観測されました。一日だけの出現のため直前変動の可能性を考えました。出現した火山噴火型変動（図2）は、その変動形から6/21.7火山噴火型変動極大に対する直前変動である可能性を観測情報No3504（10/11配信）で報告しています。この関係からは10/31±3 発生の可能性が計算できます。

ところが、当該直前変動認識変動が出現した10/9以降、ハヶ岳のCH34、CH14にBT特異変動が継続出現するようになった他、高知観測点のK3、K5に特異変動が継続出現する様になりました。ハヶ岳のCH4、CH17も静穏傾向にあった変動が毎日継続するようになっています。PBF特異も一日に数時間のみ出現にまで弱くなってしまいましたが、現在は周期も変わり24時間継続出現するようになっています。10/9以降変動が強く変化し継続したり、新たに継続出現しだした観測装置変動は、図1中に小さい矢印を付けました。

これはあたかも極大から出現するBT-2変動の様です。6/21.7極大の火山噴火型変動は、遠隔観測点には同期変動は無く、ハヶ岳南麓のみの出現です。しかし、10/9の変動は、図2のとおり3観測点全てに同期変動が認められます。ハヶ岳に強く、秋田・高知は同レベルからハヶ岳に極めて近い領域の可能性が考えやすく、No1778推定領域と調和します。

6/21極大との相違点と、前述のBT-2形態で継続出現し出した変動から、10/9.5の変動は極大と認識できます。直前変動であったか否かは断定困難ですが、一応、直前変動としました。仮に直前変動でありながら、単独小極大である場合は、29年間の観測の中では初めて体験する変動となります。No1778前兆変動では初めて体験する変動が多く観測されています。

以上のことから、現在推定される11/1±2 発生の可能性が正しい場合は、現在継続中の変動は10/26.5±1まで継続する可能性が示唆されます。

前続報段階では最終極大認識だった 8/16.1 に対して、仮に11/1±3 発生が正しい場合には、10/13±3に前兆変動が終息する可能性があることを報告致しましたが、前述のとおり、少なくとも10/27までは複数の変動が継続する可能性が示唆されます。余震の多い大型地震地帯では、静穏期以降も変動が継続する場合も有、今回も全てが10/27に終息するか不明です。10/27迄は最終決定は困難ですが、他の変動関係認識が正しければ、11/1±2 発生の可能性が考えやすい。※推定領域=図3。他の推定規模、BTからの推定発生時刻等は、前の続報を参照下さい。※本推定を覆す変動が観測された場合は続報します。

